

大学の世界展開力強化事業

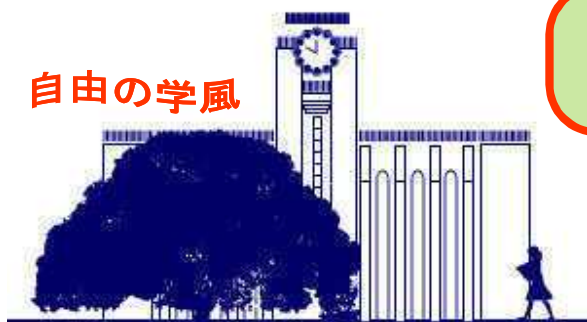
強靱な国づくりを担う国際人育成のための中
核拠点の育成 災害復興の経験を踏まえて

京都大学

構想責任者：京都大学大学院工学研究科・教授 大津宏康

大学の国際化構想および組織的な支援体制

自由の学風



・本学の留学生数

2011年5月現在:1,658人
学生総数に占める割合:7%
出身国:107ヶ国/地域

・海外提携大学への留学

交換留学制度 (KUINEP)
提携大学数:57大学2大学群
年間派遣:48名
年間受入:89名



総長のリーダーシップによる教育・研究体制の 国際化への取り組み

1. 本学の中期目標

- ・学生海外派遣制度を充実させるとともに、留学生受入体制を強化する。
- ・学部・研究科等の特性を活かした多言語教育を充実させるとともに、国際的な情報発信を強化する。

2. 国際化戦略の具体実施方策事例

1) 教育面での取り組み

- ・G30プログラム(1学部・9研究科等・1専門職大学院)
英語のみでの学位取得、外国人教員雇用
- ・京都大学国際教育プログラム(KUINEP)
日本人学生の国際化 - 英語で学ぶ学際的教養と国際感覚

2) 組織的支援体制の確立

国際交流推進機構の設立

- ・国際交流に関わる宿舍の確保、ビザ業務
- ・日本語日本文化教育、留学生アドバイジング、学生海外派遣支援
- ・FD活動の支援

3) 同窓会の国際化

中国、韓国、タイ、インドネシア、ベトナム、ラオス等に支部設立

大学の国際化構想と本拠点構想との関係

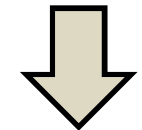


フィールドワーク研究: アジア重視・現場重視の伝統

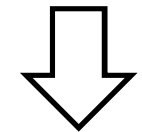
グローバルCOE「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」

- ・英語講義による博士後期課程教育プログラムの設立
- ・海外インターンシップ(短期・長期)の義務付け
- ・アジア7ヶ国(中国・ベトナム・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・インド)での海外拠点の設立

2011.3.11
東日本大震災



復旧



復興

タイ灌漑省RID
ダム耐震基準見直し
ベトナム運輸省MOT
津波早期警戒体制

京都大学

新たな概念の構築

「強靱な国」づくり
「強靱な国」を支える人づくり

タイ道路省DOT
降雨早期警戒体制

自然災害が多発するASEAN諸国
(インドネシア・タイ・マレーシア・ベトナム)

地震活動活発化
地震・津波

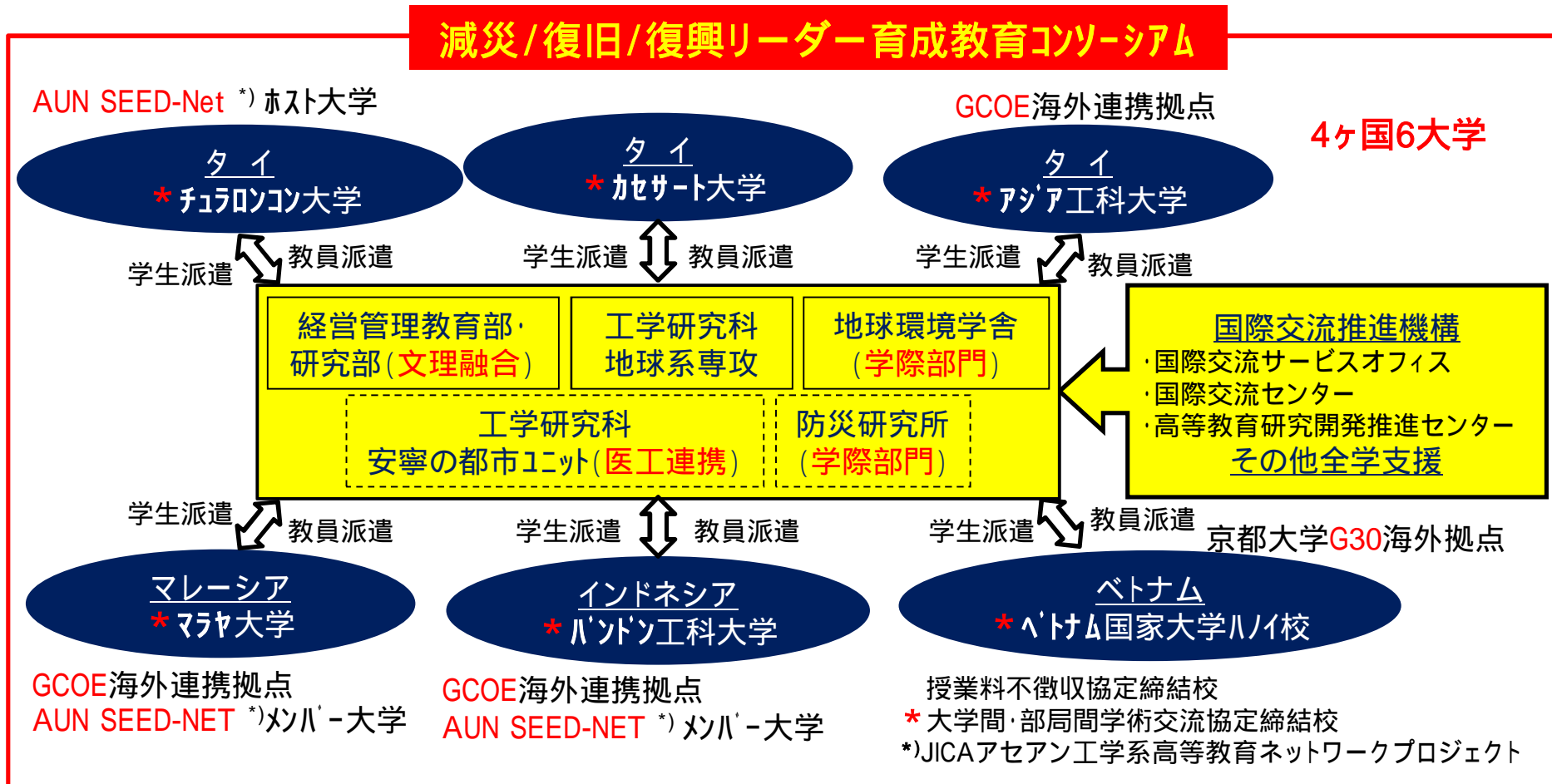
気候変動
地すべり・洪水

ASEAN大学との教育コンソーシアムの形成

本拠点構想は京都大学の中核事業と位置付け

構想の目的・概要及び参画組織

- ◆ コンソーシアムを形成するASEANの連携大学間で、減災、災害復旧学、災害復興学、災害リスクマネジメント学に関する協働教育プログラムを開発する。
- ◆ 単位相互認定を伴う協働教育プログラムをそれぞれの連携大学で実施し、他国での受講を推奨することにより、大学院生(原則修士課程学生)の相互交流と留学体験を推進する。
- ◆ 連携大学において日本の若手研究者が教育を行える環境と、連携大学の若手研究者が被災地での経験を自国に還元できる環境を整備する。



教育プログラムの枠組み

1. 概要

- 1) 受入れ留学生数(15名/年) = 日本人派遣学生数(15名/年)
- 2) 日本人教員・ASEAN連携大学教員(双方10名程度/年)派遣によるコラボレーション講義
・各大学のタームブレイク期間を利用した2~3週間での15コマ相当集中講義
(ASEAN連携大学学生短期留学:8月~9月、京都大学学生短期留学:9月)

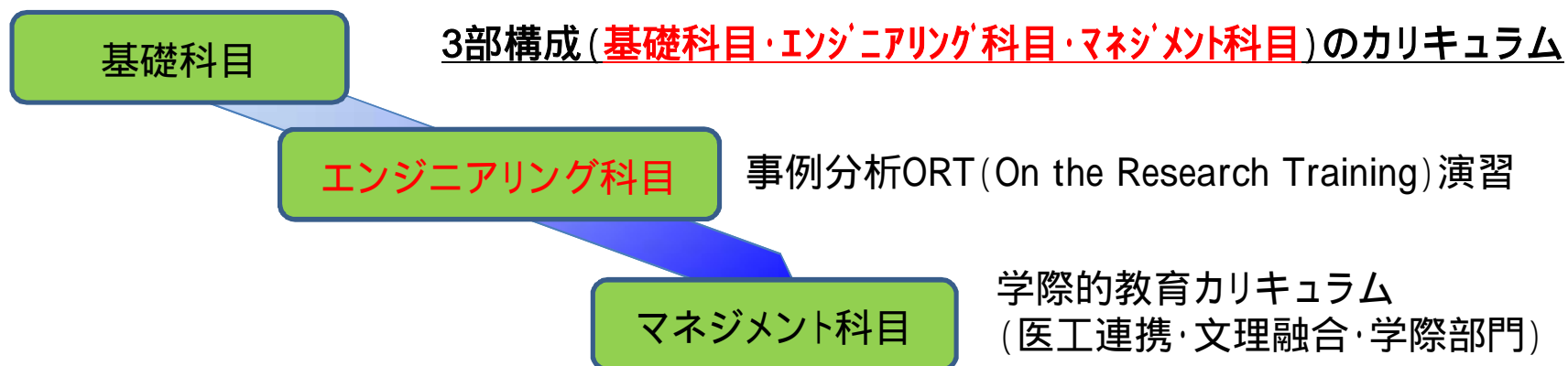
2. カリキュラム

「強靭さ」(resilienceレジリエンス)とは.....: 自然災害に直面する国々が一番必要する力
例えば“柳の木”の様な「しなやかさ」を意味する。

(どんな「災害」に遭遇しても、**致命傷を受けず、被害を最小化し、迅速に回復できる**
という力が、「しなやかな、強靭さ」)

インフラシステムの強靭化技術 (=ハード技術)

社会システムの強靭化技術 (=ソフト技術)



「強靭な国」づくり/「強靭な国」を支える人づくりに関する教育モデルの構築



日中韓を始めとする他国への発信

教育カリキュラム(案)

ASEAN連携大学での開講科目

1. 基礎科目(関連3科目;自大学提供)
2. 事例分析ORT演習(エンジニアリング科目, 2科目)
各国において解決すべき事例分析の提供
 - 1) 被災事例(地震, 津波, 地すべり, 洪水, 干ばつ)
 - 2) 減災事例(避難体制, 早期警戒体制)
 - 3) 復旧/復興事例(コミュニティー単位, 政府単位)

京都大学での開講科目

1. 基礎科目(関連3科目;自大学提供)
2. 事例分析ORT演習(エンジニアリング科目, 1科目)
東日本大震災, 中越地震, 兵庫県南部地震...
3. 学際的マネジメント学(マネジメント科目, 3科目)
減災・復旧・復興に関する学際的マネジメント学の立案・提供(医工連携・文理融合・学際分野)

履修モデル/要件

1) ASEAN連携大学学生

	ASEAN 連携大学	京都大学
基礎科目	3科目	—
エンジニアリング科目	2科目	1科目
マネジメント科目	—	2科目

2) 京都大学学生

	ASEAN 連携大学	京都大学
基礎科目	—	3科目
エンジニアリング科目	2科目	1科目
マネジメント科目	—	2科目

- ◆ 本カリキュラム科目の単位を取得した学生には、本プログラム修了の認定書(Certificate)授与
- ◆ 就職の指導
 - 留学生(母国政府機関、国際機関、企業等)、日本人(政府機関、国際機関、企業等)
 - 産官学の連携
 - ・国内外の企業へのインターンシップの推進や日本での就職を含めた指導
 - ・産業界との講演会・説明会の開催による業界との連携

年次計画(案)

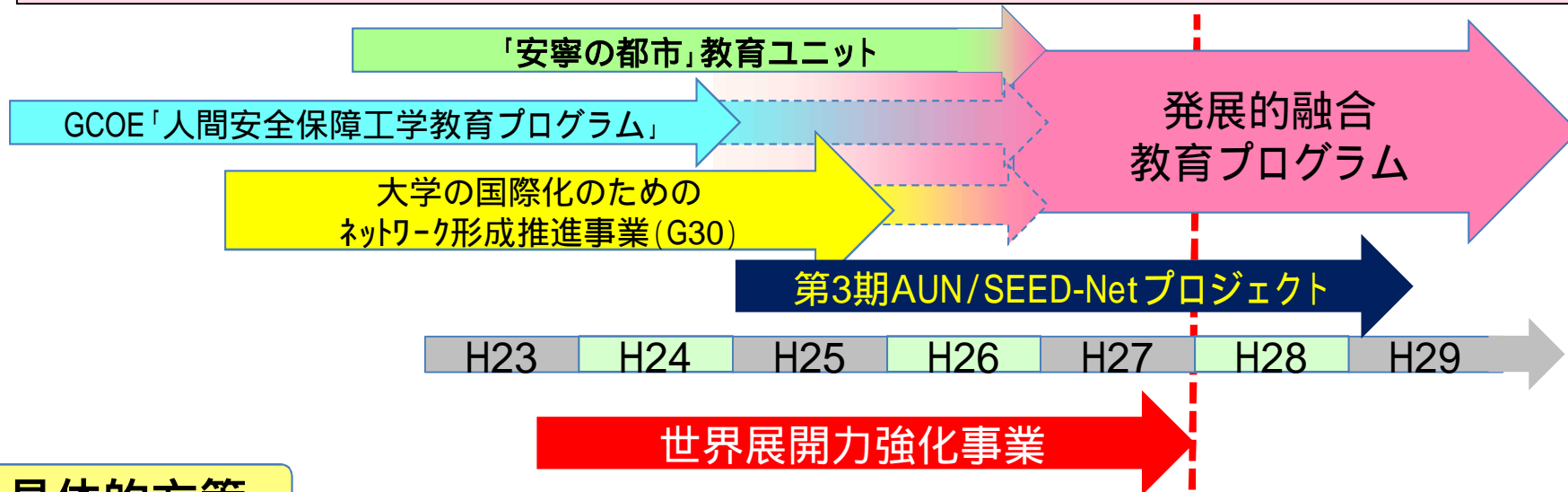
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受入留学生	0名	15名	15名	15名	15名
派遣学生	0名	15名	15名	15名	15名
学生受入 派遣相手校		3校 ・チュロンコン大学 ・カセサート大学 ・アジア工科大学	6校 ・チュロンコン大学 ・カセサート大学 ・アジア工科大学 ・ハントン工科大 ・ハトナム国家大学 ハノイ校 ・マヤ大学	6校 ・チュロンコン大学 ・カセサート大学 ・アジア工科大学 ・ハントン工科大 ・ハトナム国家大学 ハノイ校 ・マヤ大学	6校 ・チュロンコン大学 ・カセサート大学 ・アジア工科大学 ・ハントン工科大 ・ハトナム国家大学 ハノイ校 ・マヤ大学
教育プログラム	ASEAN連携大学 と協働プログラムの 開発	基礎科目・インジニ アリング科目・マネジメ ント科目の実施	基礎科目・インジニ アリング科目・マネジメ ント科目の見直し	震災復興に関す る教育プログラム等 のアウトカムの検証	人材育成と復興 に関する教育プロ グラムの継続を検 討
若手派遣		若手研究者の派 遣講義と招聘	若手研究者の派 遣講義と招聘	若手研究者の派 遣講義と招聘	若手研究者の派 遣講義と招聘

財政支援期間終了後の展開(案)

教育プログラム

事業後半: 英文テキスト刊行、現地コラボレーションプログラムの継続

事業終了後: 実施中のGCOE、「安寧の都市」教育ユニット事業、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(G30)、AUN/Seed-Net(アセアン工学系高等教育ネットワーク)との融合・発展



具体的方策

- ◆ 拠点シンポジウム開催、海外協力拠点の設置
- ◆ 各国大学・各国政府・国際機関・民間企業と協働しプロジェクト継続・発展